

# 日本気象学会 昭和55年春季大会

会期：昭和55年5月21日（水）、22日（木）、23日（金）

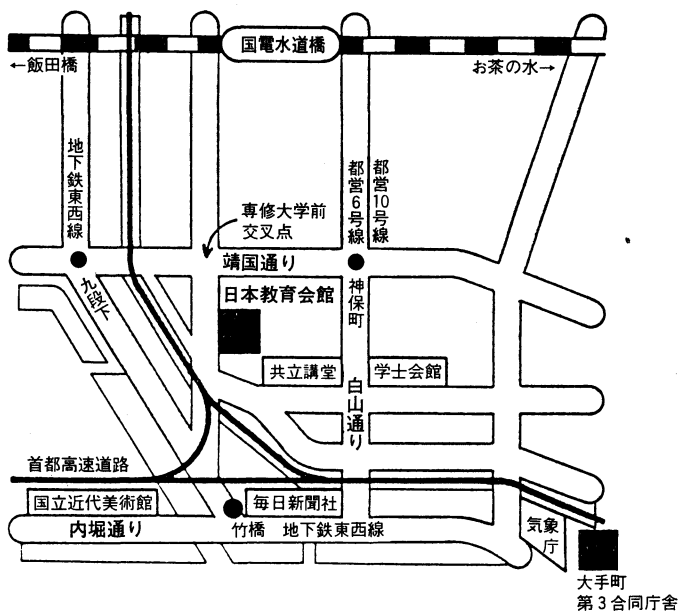
会場：日本教育会館（東京都千代田区一ツ橋 2-6-2）

Tel. 会館事務局直通 03-230-2831~4

## 目次

大会行事予定表	226
総会次第	226
研究発表内容一覧	227
研究発表題目	228~234

## 会場案内図



地下鉄東西線竹橋駅より徒歩5分

都営6号線、都営10号線神保町駅より徒歩5分

地下鉄東西線九段下駅より徒歩6分

国電水道橋駅より徒歩10分

\* 懇親会場は大手町第3合同庁舎（気象庁隣り）地下です。

## 大会行事予定表

1. 会場：日本教育会館 8F  
東京都千代田区一ツ橋 2-6-2  
第1会場：801, 802号室  
第2会場：803号室  
第3会場：804号室
2. 会期：5月21日（水）、22日（木）、23日（金）
3. 行事

行事		
大会（研究発表） 〃	（第1，第2，第3会場）	5月21日（水）09：00～12：30 13：30～17：30
大会（研究発表） シンポジウム 総会 学会賞，藤原賞記念講演会 懇親会	（第1，第2，第3会場） （第1～第3会場） （〃） （〃） （大手町第3合同庁舎地下2階—気象庁東隣り）	5月22日（木）09：00～12：00 13：00～15：00 15：00～17：30 17：30～
大会（研究発表） 〃	（第1，第2，第3会場）	5月23日（金）09：00～12：30 13：30～17：30

大会委員長 未定

## 総合次第

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 学会賞授与
5. 藤原賞授与
6. 山本賞授与
7. 昭和54年度・事業経過報告
8. 〃 会計決算報告
9. 〃 会計監査報告
10. 会費値上げのための定款の一部改正について
11. 昭和55年度予算案・事業計画案の審議
12. その他
13. 気象学会賞受賞記念講演
14. 藤原賞受賞記念講演

## 昭和 55 年 春 季 大 会

( ) : 講演番号, — : 座長

	第 1 会 場		第 2 会 場		第 3 会 場	
5 月 21 日 (水)	09:00~ 12:30	力学・数値計算 (101~117) —時岡達志—	09:00~ 12:30	局地循環 (201~214) —浅井冨雄—	09:00~ 12:30	放 射 (301~314) —田中正之一—
	13:30~ 17:30	大気大循環 (118~131) —中村 一—	13:30~ 17:30	大気汚染 (215~230) —大喜多敏一—	13:30~ 17:30	放 射 (315~318) —会田 勝— エーロゾル(319~329) —武田喬男—
5 月 22 日 (木)	09:00~ 12:00	気候・総観気象 (132~143) —森 信成一—	09:00~ 12:00	境界層 I (231~241) —林 正康—	09:00~ 12:00	エーロゾル(330~334) —大田幸雄— 大気化学 (335~341) —伏見克彦—
	13:00~ 15:00 15:00~ 17:00	シンポジウム 総会・記念講演				
5 月 23 日 (金)	09:00~ 12:30	総観・中小規模現象 (144~160) —新田 勅一—	09:00~ 12:30	境界層 II (242~254) —塚本 修一—	09:00~ 12:30	雲物理 (342~354) —権田武彦—
	13:30~ 17:30	熱帯気象・台風 (161~176) —相原正彦—	13:30~ 17:30	境界層 III(255~260) —横山長之— 応用気象 (261~268) —吉田作松—	13:30~ 17:30	大気電気 (355~359) —三崎方郎— 観測・測器(360~368) —青柳二郎—

注) 大会参加費 会員 500円, 学生会員 300円, 一般 1,000円

## シンポジウム「リモートセンシングと気象」

1. 日時 大会第2日(22日)
2. 会場 第1~3会場
3. 座長 小平信彦(気象衛星センター): 気象におけるリモートセンシングのレビュー
4. 話題提供者

嘉納宗靖(気象研究所) : 赤外放射を利用した大気要素の推定

福島 圓(電波研究所) : 音波, 電波を利用したリモートセンシング

中山 章(東京航空地台) : 航空気象の立場からみたリモートセンシングのあり方

講演発表者へのお願い

1. スライドのマウントに番号をつけること。
2. スライドの上下を揃え, 分かるようにすること。
3. 講演時間は12分程度しかありませんので, スライドの標準枚数は6~8枚です。
4. 12枚を越えるときは枚数を減らしていただくことがあります。
5. 持ち時間(15分)を超過したときは中止していただくことがあります。

## 研究発表題目

大会第1日(5月21日) 9時00分~12時30分

## 第1会場 力学・数値計算

座長 時岡達志

101. 三村和男・廣田 勇(京大・理): 水平シャー流中の内部重力波の振舞いについて
102. 里村雄彦(東大・理): 発散のある水平シャー流の線型不安定
103. 田中 浩(名大・水圏研): 内部重力波の非線型臨界層の構造
104. 野上 豊(京大・理): 二層連続成層流体中の惑星孤立波
105. 高橋正明・瓜生道也(九大・理): 鉛直臨界層近傍につくられる惑星波に伴う平均子午面循環
106. 松田佳久(東京学芸大学): 流体現象における対称性の低下と解の分枝Ⅰ
107. 松田佳久(東京学芸大学): 流体現象における対称性の低下と解の分枝Ⅱ
108. 新野 宏(東大・海洋研): 回転流体中の層流ジェット——線形論
109. 木村竜治・三沢信彦(東大・海洋研): 地表から大気への角運動量ポンピング(2部)——角運動量蓄積の流体実験——
110. 木村竜治(東大・海洋研): 地表から大気への角運動量ポンピング(1部)——剛体回転系と熱力学系の類似性——
111. 田中 浩・吉澤宣之・小野 晃(名大・水圏研): 室内実験による熱対流性渦のシミュレーション
112. 余田成男(京大・理): 傾圧不安定波に対する摩擦および加熱の影響
113. 遠峰菊郎・阿部成雄・永吉 勉(防衛大学校): 大規模な山塊の周囲の定常状態
114. 斎藤和雄・近藤洋輝(気象大学校): 低周波エネルギーを増大させない繰り返し時間積分法
115. 増田善信(気研・予報): 計算時間を短縮するだけでなく高周波ノイズを効果的にダンプさせる時間積分スキーム
116. 巽 保夫(気象庁・電計): Split-Explicit 法を用いて計算時間を短縮したモデルの開発(1)
117. 巽 保夫(気象庁・電計): Split-Explicit 法を用いて計算時間を短縮したモデルの開発(2)

## 第2会場 局地循環

座長 浅井 富雄

201. 中村 力・孫野長治(北大・理)・吉田裕一(北大・環境): 盆地冷却のメカニズムに関する観測
202. 宮田賢二(広島女子大)・渡部浩章(広島地台)・瀬戸信也・大原真由美(広島県環境センター): 海陸風の広域的特性に関する統計的解析
203. 渡辺 明(福島大学): 猪苗代湖周辺の気温分布と局地循環
204. 橋本寿朗(愛教大・院)・大和田道雄(愛教大): 豊橋平野における海風前線の移動について
205. 加藤央之(北大・環境・院)・高橋英紀(北大・環境): 洞爺湖の湖陸風
206. 河村 武・田宮兵衛(筑波大・地球)・小林 守(筑波大・環境): 霞が浦の湖陸風
207. 原田 朗(気研): 夜間に発達する下層ジェット流の解析
208. 水間満郎(京大・原子炉): 関東地方の大気境界層風の日変化についての一考察
209. 光本茂記・植田洋匡(国立公害研): 室内実験による海陸風循環のシミュレーション——その1. 流れのパターンと温度の鉛直分布——
210. 光本茂記・植田洋匡(国立公害研): 室内実験による海陸風循環流のシミュレーション——その2. 水平, 鉛直流速の測定——
211. 近藤裕昭(資研): 改良された closure-model を用いた二次元海陸風の数値実験
212. 吉田忠彦・阿部成雄(防大): 半島における海陸風について(数値実験)
213. 佐橋 謙(岡山大・教育): 直交曲線座標とスペクトル法を用いた海陸風の数値実験
214. 菊池幸雄(気研)・荒川正一・白崎航一(気大)・木村富士雄(気研)・長野美文(環境庁): 京阪神地方の局地循環の数値シミュレーション

## 第3会場 放射

座長 田中正之

301. 浅野正二(東北大・理): ランダムに方位した回転楕円体粒子の光散乱特性・Ⅱ
302. 総合観測グループ(東北大・防衛大・気象研・公害研): 大気中エアロゾルの光学的特性の総合的測定(Ⅲ)

303. 総合観測グループ(東北大・防衛大・気象研・公害研): 大気中エロゾルの光学的特性の総合的測定(Ⅳ)
304. 小林隆久・矢野直(気研・応用): 消散係数の変動による Langley Calibration の誤差
305. 荒生公雄(長崎大・教育): 福岡における大気混濁係数の経年変化について
307. 会田勝・中田朝夫(横浜国大・教育): 都市のアルベド(Ⅱ) 高層ビルの利用
307. 嘉納宗靖・宮内正厚・鈴木正・池上比呂志(気研): 海から発する短波長放射におよぼす大気の影響の除去
308. 宮内正厚・鈴木正・嘉納宗靖(気研・高層物): 理地上設置型分光計による雲のある場合の下層大気温度垂直分布の推定
309. 久保田効(気象庁・電計): 8日予想における雲の影響
310. 内山明博・郭宗欽(東北大・理): 赤外放射の Flux, Cooling rate の計算への Godson-Weinreb-Neuendorffer 近似の適用
311. 内山明博・田中正之(東北大・理): 中間圏における赤外放射の伝達(Ⅱ) Matrix elements の計算方法
312. 斉藤隆幸(埼玉工大): 都市の向下長波放射量におよぼすエロゾルの影響
313. 一木明紀(高層气象台): 夜間に地表で測定される下向き放射量への雲, 気温, 水蒸気量の影響
314. 中澤高清・田中正之(東北大・理): 低温における一酸化炭素の半幅値理論との比較

## 大会第1日(5月21日) 13時30分~17時30分

- 第1会場 大気大循環** 座長 中村 一
118. 時岡達志・山崎孝治・谷貝勇・桜井徹(気研・予報): 気象研究所大気大循環モデルについて
119. 木田秀次(気研・予報): 二つの大気大循環像について
120. 木田秀次・T. Shimazaki (ARC/NASA): 大気微量成分の大循環と起源の数値シミュレーション
121. 松野太郎・進藤武彦(東大・理): 金星大気四日循環の機構に関する数値実験
122. 森山茂(日大・生産工習志野校舎): 火星: 砂嵐時の極夜域上層大気の突然昇温について
123. 川平浩二(京大・理): 定常プラネタリー波の全球構造(Ⅲ)
124. 三角幸夫・廣田勇(京大・理): 惑星間空間磁場境界通過に伴う地球大気の変動
125. 小林寿雄(京大・理): 顕熱南北輸送に見られる準2年周期
126. 小林寿雄(京大・理): 北半球中高緯度における顕熱南北輸送の経年変化に関するデータ解析
127. 長谷部文雄・小林寿雄(京大・理): 北半球におけるオゾン全量と顕熱南北輸送との対応
128. 岩嶋樹也(京大・理): 夏季定常波の解析
129. 田中博(筑波大・院): 500mb 面におけるプラネタリー波の変動特性
130. 須田滝雄(岐阜大・農): 対流圏中層気圧の長周期南北振動について
131. 荒井康(気象庁・長期): 500mb 高度の持続性と精度について
- 第2会場 大気汚染** 座長 大喜多 敏 一
215. 安達隆史(日本気象協会・研究所): 大気汚染シミュレーションのための上層風推定法
216. 山本務(香川県公害課): オキシダント予測に用いられるパイボール結果の一考察(Ⅰ)——風速の鉛直プロファイルを用いてのオキシダント高濃度日の判別手法——
217. 山本務(香川県公害課): オキシダント予測に用いられるパイボール結果の一考察(Ⅱ)——10分後の再観測との比較について——
218. 鶴田治雄(横浜市・公害研): 京浜工業地帯から排出される窒素酸化物の輸送及び変質過程に関する夏期立体調査(その1)
219. 鶴田治雄(横浜市・公害研): 京浜工業地帯から排出される窒素酸化物の輸送及び変質過程に関する夏期立体調査(その2)
220. 大和田道雄・山中一己(愛教大・地理)・三輪英(愛教大・地理・院): 気圧配置の動きに伴う名古屋市の SO<sub>2</sub> 濃度の周期的変化について
220. 藤田敏夫(気象研・予報): 高濃度オキシダント気塊の移動について
222. 村尾直人・大喜多敏一(北大・工): 成層圏オゾ

- ンの沈降による高濃度オキシダントの出現
223. 大滝英治(岡山大・養)：魚島での炭酸ガス観測(2)
224. 佐藤純次・木村富士男・吉川友章(気研・応用)：連続測定器による小規模拡散実験(I)——濃度の分布とフラックス——
225. 木村富士男・佐藤純次・吉川友章(気研・応用)：連続測定器による小規模拡散実験(II)——濃度の確率密度分布——
226. 佐藤昭三・岩永泰一・松崎純枝(大阪府大・工)：安定に成層した海洋上の大気中に発生源がある場合の拡散現象——Fumigation Model
227. 広尾 純・塩沢清茂(早大・理工)：無次元風速シヤーを考慮した拡散モデルの比較
228. 吉川友章(気研・応用)：伊勢湾地区における光化学スモッグの数値実験
229. 横山長之・北林興二・林 正康・水野建樹(公害資研)：非定常拡散シミュレーションモデル
230. 笹野恭弘・重松明夫\*・清水 浩・竹内延夫・奥田典夫(国立公害研, 筑波大・環境科学\*)：安定層底部高度とエアロゾル層高度の対応関係について
- 第3会場 放 射 座長 会 田 勝
315. 田中正之・中澤高清・青木周司(東北大・理)：大気中の二酸化炭素濃度の測定 I (地上ステーションでの測定)
316. 田中正之・中澤高清・青木周司(東北大・理)：大気中の二酸化炭素濃度の測定 II (航空機による観測)
317. 関原 疆(東京理大)：高緯度地方の高層気温と太陽活動との関係
318. 酒井重典・大越延夫・三宅 勉(高層気象台)：オゾン全量の分布とその季節変化
- エアロゾル 座長 武 田 喬 男
319. 岩坂泰信・長屋勝博・三田昭吉(名大・水圏研・和田誠(国立極地研)：成層圏エアロゾル混合比の季節変化(I))
320. 岩坂泰信・長屋勝博・小林愛樹智・箕浦宏明(名大・水圏研)：成層圏エアロゾルの人工衛星による観測とライダーの同時観測 SAGE I (1)
321. 柴田 隆・内浦通弘・藤原玄夫・広野求和(九大・理)：Nd: YAG Laser Rader による成層圏エアロゾルの観測
322. 三崎方郎・金沢五寿雄・地上三和子(気研)：圏界面付近のエアロゾル分布例
323. 伊藤朋之(気研・物理)：南極昭和基地における大粒子エアロゾル濃度の通年観測
324. 伊藤朋之(気研)・小野 晃(名大・水圏研)・岩井邦中(信大・教育)：対流圏エアロゾルの地球規模での挙動に関する研究(2)——東京南極間のエイトケン粒子の洋上分布について——
325. 北川信一郎・高橋司(埼玉大)・池上三和子・金沢五寿雄・三崎方郎(気研)・中谷 茂(電総研)・関川公成・増田純夫(東理大)・望月 定(室蘭工大)・首藤克彦・児島 紘(東理大・理工)・角田智良(環境アセスメントシステム)：大都市およびその周辺地域におけるエアロゾルの分布と変動の研究(第8報)
326. 村林 成・岡田菊夫・岩坂泰信・武田喬男(名大・水圏研)：都市及びその周辺上空におけるエアロゾルの垂直輸送(3)
327. 岡田菊夫・岩坂泰信・武田喬男(名大・水圏研)：都市及びその周辺上空におけるエアロゾルの垂直輸送(4)
328. 石坂 隆・小野 晃(名大・水圏研)・角脇 怜(愛知県公害調査センター)：塩砂を構成する物質の粒度特性
329. 太田幸雄・大喜多敏一(北大・工)：エアロゾルの有機成分濃度の測定(I)

## 大会第2日(5月22日) 09時00分～12時00分

- 第1会場 気候・総観気象 座長 森 信 成
132. 山元龍三郎(京大・理)・星合 誠(愛知学院大)：北半球平均気温と雪氷被覆面積等との関連性
133. 星合 誠(愛知学院大学)：最近100年間の北半球地上気温変動推算結果の検討
134. 張 鐔(北京大・地球物理)・安成哲三(京大・東南アジア研)：低緯度における地上気圧の経年変動——最近100年間について——
135. 菊地直吉(緯度観測所)：極運動と北半球気温分布との対応性

136. 米谷恒春(国立防災センター)：東京における降水量の長期変化
137. 米谷恒春(国立防災センター)：関東地方の主要都市における降水量の長期変化
138. 小元敬男・鯉谷 憲(大阪府大農)：気候データに含まれる都市気候の影響度の評価の試み(3)
139. 中西 朗(新潟市立桃山小学校)：ハパロフスク地方の寒気と瓢湖(新潟県)の白鳥最高羽数
140. 播磨屋敏生(北大・理)：台風20号(7920)による北海道での被害とその気象特性
141. 近野好文・菊地勝弘(北大・理)：北海道胆振地方の山岳性降雨(その2)——雨滴粒度分布の2点観測——
142. 後町幸雄(京大・防災研)：鈴鹿山脈周辺の大雨の特性
143. 青木 孝(気研・予報)：熱雷の判別解析による予測(II)

第2会場 境界層I 座長 林 正康

231. 戸矢時義・安田延寿(気研・応用)：不飽和陸地面からの蒸発散量と土壌水分について
232. 水野建樹・山本 晋(公資研)・望月吉勝(東海大)：安定層中の乱流構造について
233. 安田延壽・戸矢時義(気研・応用)：乱流統計量の平均化時間、観測時間等について
234. 伊藤昭三(阪府大・工)・西田 薫(京大・工)・松崎純枝(阪府大・工)：風向・風速の変動量とサンプリング時間について
235. 花房龍男・藤谷徳之助(気研・物理)・伴野 登(気研・衛星)：大気下層の風s特性(その1)
236. 西山 宏・花房龍男・藤谷徳之助(気研・物理)：地形の影響による気流の変化について(その1)——三宅島周辺——
237. 藤谷徳之助・花房龍男(気研・物理)：滑走路周辺の低層の気流の立体構造の観測(II)
238. 内藤玄一・渡部 勲・徳田正幸(国立防災センター)：海面におけるマイクロ波レーダビームの散乱特性
239. 内藤玄一(国立防災センター)・安田延壽・戸矢時義(気研)：不安定成層での海面からの水蒸気

量と顕熱の輸送

240. W.V. Burt (OSU)・光田 寧(京大・防災研)・石田廣史(神船大)・C.A. Paulson (OSU)：Joint Air-Sea Interaction(JASIN) Experimentsの解析結果——4個のブイによる観測——
241. 竹田 厚(防災センター)：海面上の風速変動のスペクトル特性と波浪の影響

第3会場 エアロゾル 座長 大田 幸雄

330. 田中豊顕(気研・物理)・臼井英雄(臼井工業研究所)：フィルターカセットを装着したエアロゾル粒子の連続捕集装置(防爆型氷晶核採集装置)
331. 村上正隆・木村 勉・孫野長治(北大・環境)：降雨によるエアロゾル除去作用の観測——主に $SO_4^{2-}$ 、 $Cl^-$ について——
332. 竹内丑雄(成蹊大・工)：降水中のKの発生源について
333. 神山恵三・関谷健司・西岡 進(東京農工大)：アルキルベンゼン、テルペンおよび凝結核の日変化について
334. 神山恵三・田中伸介・岩田信英(農工大)：ユーカリノキからの Terpene 揮散と気温との関係ならびに $No_x$ による Terpene の減少

大気化学 座長 伏見 克彦

335. 今井俊男(岩見沢測)：高濃度自然放射能の発生機構について
336. 猿橋勝子・金沢照子(気研)・三宅泰雄(地球化学研究協会)：雨水中の二酸化炭素の濃度について
337. 三宅泰雄(地球化学研究協会)・猿橋勝子・金沢照子(気研)：南北両半球へのトリチウムと $^{90}Sr$ の降下について
338. 三宅泰雄(地球化学研究協会)・猿橋勝子・金沢照子・桜井澄子(気研)：雨水のpH
339. 三宅泰雄(地球化学研究協会)・桜井澄子・猿橋勝子(気研)：雨水の酸素含量について
340. 岩坂泰信(名大・水圏研)：RRK theory からみえた Nucleation Rate constant の検討(I)
341. 村松久史・広田道夫・牧野行雄(気研・高物)：大気中におけるフロン11, 12および亜酸化窒素の濃度(3)

## 大会第3日(5月23日) 9時00分~12時30分

## 第1会場 総観・中小規模現象 座長 新田 勣

144. 饒村 曜(気象庁・予報): 東京都における降雨確率の外挿について
145. 岡林俊雄(気象大)・高尾俊則(名瀬測): 気象衛星資料による降水量の推定——VIS と IR を合成する方法——
146. 清水喜允(気象衛星センター): 赤外資料の格子化による降雨強度の推定
147. 檜尾守昭(気大): 竜巻を伴った寒冷前線の線状エコーの解析
148. 高瀬邦夫(新潟地台)・武田喬男(名大・水圏研)発達, 衰弱を繰り返し長続きした積乱雲 (RHI レーダーによる CAPPI 観測)
149. 河村守治・大西外史(防衛大学): 冬季北陸地方の雷について
150. 秋山孝子(気研): 山雪・里雪型豪雪時の大規模場
151. 八木正允・内山徳栄(気研): 冬期日本海でみられる大規模なトランスバース・モードの雲列についての統計的解析
152. 櫃間道夫・成川二郎(気庁・予報): 関東地方に限定して現われる低い雲域(序報)
153. 櫃間道夫・成川二郎(気象庁・予報課): 本州南岸沖を西進して発達する中規模の雲システム(統報 I)
154. 成川二郎・櫃間道夫(気象庁・予報): 本州南岸沖を西進して発達する中規模の雲システム(統報 II)
155. 小花隆司(気象衛星センター): 下層雲域を発達させる上層雲の役割りについての一見解
156. 長谷川隆司(気象衛星センター): 南岸低気圧(本州南岸沿いを西進後東進する中間規模じょう乱)
157. 植村八郎(気象庁・予報): 梅雨前線の活動について
158. 二宮洗三・巽保夫(気象庁・電計): 6層 77 km 格子ブリミテブモデルにおける梅雨前線と大雨
159. 相原正彦(仙台管区): 中間規模低気圧発達の一機構について
160. 猪川元興(気象研・予報): 「佐々木の変分法」による, ゾンデ・アメダスデータを用いた山を考慮した客観解析システム

## 第2会場 境界層II 座長 塚本 修

242. 島貫 陸・名越利幸(東京学芸大学): 接地層にお

ける乱流輸送の普遍関数について

243. 小森 悟(国公研): 成層乱流へのスペクトル方程式モデルの適用
244. 花房龍男・藤谷徳之助(気研・物理): 強風の性質(その1)
245. 塚本 修・光田 寧(京大・防災研): 強風時における風の乱れる空間的構造について
246. 山本 晋・横山長之・蒲生 稔(公害資源研): タワーによる大気境界層の観測——早朝から日中にかけての接地安定層解消・混合層形成過程について(その2)——
247. 蒲生 稔・山本 晋・横山長三・吉門 洋(公害資源研): 海陸2境界面上に発達する内部境界層の飛行機観測(その9)
248. 林 正康(公害資源研): ソーダによる大気境界層の観測
249. 近藤純正・萩野谷成徳(東北大・理)・千葉 修(高知大・理): 接地境界層の発達の研究(II)
250. 米谷俊彦(岡山大・農生研): 植物群落上の乱気流特性について(X)
251. 北林興二(公資研)・広島謙治(東海大): 熱線風速計を用いた大気乱流測定(第二報)
252. 根本 茂・安枝伸子・田中さえ子(お茶大・理): 粗面上の乱流境界層の構造(風洞実験)
253. 加藤真規子(お茶の水女子大・理): 乱流拡散に及ぼす温度成層の影響(V)
254. 前野紀一・荒岡邦明・金田安弘(北大・低温研): 粒子の運動を伴う境界層の風の構造

## 第3会場 雲物理 座長 権田 武彦

342. 佐藤 昇・菊地勝弘(北大・理): 南極域における降水粒子の性質(その2)
343. 武田喬男\*・菊地勝弘\*\*・加藤喜久雄\*・藤吉康志\*・坪谷成行\*\* (\*名大・水圏研, \*\*北大・理): 北極域の雲と降水の観測(POLEX-North) その1 観測の概要
344. 梶川正弘(秋田大・教育)・菊地勝弘・遠藤辰雄・孫野長治(北大・理): カナダ北極圏における雪結晶の観測, V(雪結晶ゾンデによる下層大気中の雪結晶観測)
345. 菊地勝弘(北大・理)・稲津和雄(日本電子科学(株)): 降雪粒子測定システムの試作
346. 中村健治・阿波加 純・吉村和幸・林 理三雄(電波



- 研) : ドップラレーダによる 雨滴粒径分布の推定
347. 武田喬男・夏木尚平(名大・水圏研) : NIMBUS-5 マイクロ波による liquid water の評価(その2)
348. 横山辰夫・田中 浩(名大・水圏研) : レーダーの波長依存性を利用した融解層における併合・分裂過程の解明
349. 松尾敬世・佐粧純男(気研・物理) : 多孔性雪片の雲粒捕捉率
350. 山崎利夫・権田武彦(東理大・理工) : 多面体氷晶の形成について
351. 礪野謙治(名大) : 氷晶の成長形態を決定する因子と成長速度(1)
352. 武田喬男・原田奈遠美(名大・水圏研) : エーロゾルの物質構成が雲の微細構造に及ぼす効果(数値計算)
353. 石原正仁(気研・台風)・田中豊顕(気研・物理) : 東経137°線に沿った氷晶核分布(東京から北緯2°までの船による観測結果)
354. 小野 晃・大谷 健(名大・水圏研) : On the capability of atmospheric sulfate particles as CCN

### 大会第3日(5月23日) 13時30分~17時30分

#### 第1会場 熱帯気象・台風 座長 相原正彦

161. 嶋村 克(気象衛星センター) : GMS資料による深い対流活動の解析(その2)
162. 石原正仁・柳沢善次(気研・台風) : MONEX 期間中観測された熱帯スコールライン
163. 柳沢善次(気象研・台風) : 台風降雨帯に伴う豪雨の解析(Ⅲ)
164. 村松照男(気研・台風)・小佐野慎吾(衛星センター) : GMS で観測された台風の雲域の日変化
165. 清水喜允(衛星センター) : 赤道収束帯から北にのびる雲バンド
166. 饒村 曜(気象庁・予報課)・宮沢清治(気象庁・予報課) : 台風に関する諸統計
167. 上坂慶正(気象庁・象報課) : 台風7920 (TIP) 中心近傍における 700 mb 高度分布の監視
168. 北出武夫(気象庁・電計) : 移動する台風の数値シミュレーション(Ⅰ)
169. 中村健次(気象衛星センター) : 対流圏上層の発散うずが台風前期の熱低を形成することについて
170. 嶋村 克(気象衛星センター)・杉 正人・金光正一郎(気象庁・電計) : GMS 資料を用いた Upper Cold Low の解析と予報(Ⅱ)
171. 杉 正人・金光正一郎(気象庁・電計)・嶋村 克(気象衛星センター) : GMS 資料を用いた Upper Cold Low の解析と予報(Ⅱ)
172. 渡辺征夫(気象衛星センター) : 気象衛星資料による ITCZ の解析
173. 丸山健人・常岡好枝(気研・予報) : 衛星雲風ベクトルと高層風データのスペクトル解析による比較

(続)

174. 上田文夫(気象衛星センター) : GMS資料による熱帯雲域のスペクトル解析
175. 増田耕一・石田十郎・西 裕司・新田 勲(東大・理) : モンスーン低気圧の客観解析と生成機構
176. 田中 実(筑波大・地球科学系) : 南アジア地域における夏のモンスーンの開始

#### 第2会場 境界層Ⅲ 座長 横山長之

255. 横山長之・吉門 洋(公資研) : 大気境界層の平均風の鉛直プロファイル
256. 沢井哲滋(札幌管区)・瀬戸敏良(釧路地台) : 北海道太平洋側の夏の移流霧についての数値モデル
257. 山崎孝治(気研・予報) : GCM のための地面温度予報について
258. 中村晃三・浅井富雄(東大・海洋研) : 気団変質過程の数値実験—— $2\frac{1}{2}$ 次元モデル——(その3 : 対流と大規模な流れのカップリング)
259. 吉門 洋(公害源研)・文字信貴(京大・防災研) : 赤道海域低層大気の温湿度構造(MONEX 低層ゾンデ観測)
260. 新田 勲, 蘇 鮮燮(東大・理) : AMTEX'75における収支計算——飛行機観測との比較

#### 応用気象

座長 吉田 作松

261. 真鍋大覚(九大・工)・佐藤洋子(九大・工) : 地平線上の陽炎と二十三日の月景
262. 真鍋大覚(九大・工)・志賀正信(長崎海洋台) : 佐藤洋子(九大・工) : 白土の年代測定による温泉岳の大爆発
263. 赤井清康(日本気象学会関東地区) : 一般的暖房室

温の方程式の解について

264. 河村 武(筑波大・地球科学):都市の高温と冷暖房
265. 木村隆昭(気象衛星センター):GMS でとらえたオホーツク海の流氷と風との関係
266. 土屋 巖・松戸 修(国立公害・環境情報部):ランドサット CCTによる残雪領域の数値解析
267. 鴻野繁和・前野紀一(北大・低温研):融雪期の雪面が汚れる原因について
268. 阿部友三郎・松本和夫・市毛達郎・中島光雄(東理大・理)・新井正一:飛砂に関する研究——浮遊砂の粒径分布について——

第3会場 大気電気 座長 三崎 方郎

355. 高杉年且(京大・防災研):降水の電気的特性——降水雲のタイプと雨滴の帯電特性——
356. 谷口 恭・孫野長治・遠藤辰雄・穂積邦彦(北大・理)・竹内利雄・仲野 貴(名大・空電研):冬の雷雲の電気的構造について(その5)
357. 遠藤辰雄・谷口 恭・孫野長治(北大・理)・坂本洋和(赤平西高):冬の雷雲の電荷分布と風の鉛直シャワーの対比
358. 藤吉康志(名大・水圏研):中層降水雲のレーダーエコー構造と電場変化
359. 竹内利雄・仲野 貴(名大・空電研):S. Israelsson, S. Lundquist, E. Åström (ウプサラ大, スウェ

ーデン):Positive 落雷による電界急変化の観測

第3会場 観測・測器 座長 青柳 二郎

360. 菊地原英和(気象大学校):母集団分布曲線に対するヒストグラムの誤差と描き方
361. 村林 成・岩坂泰信・武田喬男(名大・水圏研):Lyman- $\alpha$  線を用いた湿度計について
362. 岩坂泰信・小林愛樹智(名大・水圏研):チューナブルレーザを光源とした相関分光技術の開発とその応用(1)
363. 油川英明(北大・低温研):光学繊維を利用した自記積雪深計
364. 上田 博・八木鶴平(国立防災科学技術センター):ファンビーム・ドップラーレーダーによる水平風の測定
365. 竹田 厚・渡部 勲(防災センター・平塚支所):SEASAT-I の散乱計データによる洋上風向風速分布の解析
366. 加藤政勝・森川幹夫(気象衛星センター):静止気象衛星「ひまわり」より得られる風ベクトルの精度の検討
367. 三木芳幸・鈴木哲夫(気象衛星センター):衛星赤外画像とレーダーエコーとの関係
368. 阿部勝宏(気象衛星センター):静止気象衛星「ひまわり」の赤外放射データによる可降水量の算出